

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330212

研究課題名(和文) コミュニティワークの社会教育的アプローチの構築に関する理論的・実践的研究

研究課題名(英文) Theoretical and Practical Study on the Adult Education Approach of Community Work

研究代表者

高橋 満 (TAKAHASHI, MITSURU)

東北大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：70171527

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、コミュニティワークの社会教育的アプローチを構築するための理論的、実践的な研究である。

以下の諸点を明らかにした。第1に、コミュニティワークをすすめる際に、参加する人びとのエンパワーメントをはかる必要があり、そのためには教育的アプローチが必要である。第2に、教育的アプローチとは、講座を開催するという手法ではなく、参加を深めるような教育的支援が求められる。第3に、教育者の役割は、この参加を支援するために学ぶ環境をつくることである。

研究成果を有効なものにするために、「市民参加でつくる計画・評価のためのツール」を開発し、NPOなどで活用されている。

研究成果の概要(英文)：In this study, we explored theoretically and practically how we develop adult educational approach for community development. What we made clear are following points; 1) Empowerment of participants shall be taken consideration for community development. Therefore we need to take educational approach. 2) Educational approach is not to lecture on the course, but to educational support so that participants further take part in practice. 3) It is important that the role of educator is to support creating a learning environment. For making more effective, we made "Practice Tool for Planning and Evaluation of Community Development" and were used at Practice of NPO.

研究分野：教育学

キーワード：コミュニティ・キャパシティ 地域づくり 計画・評価 社会教育 市民参加 コミュニティワーク

### 1. 研究開始当初の背景

この研究は、地域づくりと社会教育の系譜に属する。しかしながら、鈴木敏正らの一連の研究でも先進事例の実証的研究にとどまっており、いかにその実践をつくることのできるのか、その際に、社会教育の理論と実践がどのような意味をもつのか、という視点は希薄であった。求められるのは、より実践的なアプローチの理論的基礎づけと技法の開発である。

本研究の着想は大きく2つの研究の批判的検討にもとづく。その第1は、社会福祉領域の研究である。日本ではコミュニティワークは社会福祉学領域の独壇場であり、地域援助法として理解されている。しかし、社会福祉の領域では、個別ケースの福祉ニーズを充足することが重要であり、コミュニティ・アプローチが固有のものとしてとられているわけではない。これと関係して、福祉ニーズ実現のための医療・福祉領域の人・機関のネットワーク形成にとどまっており、福祉関係者を越える人びとの参加や地域の諸問題の解決は必ずしも実践の射程には入らない。方法論のレベルでも、資源の発掘とネットワーク化が重視されるが、いかに地域の課題解決能力を高めるのか、という問題意識も手法も未開拓である。つまり、コミュニティワークとしての理論も実践も未成熟なまま一般論にとどまっているのである。

第2に、World Bank や UNDP などの国際機関が提唱する community capacity development などの実践と研究である。このアプローチでは地域社会にある既存のキャパシティの要素に注目して、当事者たちの自主的で主体的な参画を促しつつ、この力を高めるための取り組みをすすめる。それを保証する政策や制度をつくるのがめざされる。しかし、それは国レベルの政策や制度の転換を図るマクロなアプローチであ

り、より小地域でのキャパシティをどのように高めるのか、という課題に応える視点や方法論をもちえていない。キャパシティを構成する個人、個人のエンパワーメントをいかに図るのか、という点が理論と実践の明らかにすべき点である。教育的アプローチの構築が必要な理由もここにある。

### 2. 研究の目的

現代社会には高齢・少子化、環境問題など、その解決を求められる諸課題がある。その解決に際しては、行政を中心とした介入にもまして、地域社会の課題解決力に対して期待が寄せられている。しかし、コミュニティ・エンパワーメントを担うコミュニティワークは、主に社会福祉学の領域で理論的検討と実践がすすめられているが、社会福祉の資源に限定したアプローチのために、その本来もっている可能性をくみ尽くすことができていない。本研究では、コミュニティワークの社会教育的アプローチの可能性を理論的に基礎づけるとともに、健康づくり、震災からの復興をめぐる対象地域をとりあげ、アクションリサーチによりながら実践の手法を開発することを試みる。この教育的アプローチの意義は、住民の地域活動への参加とエンパワーメントを図ることを通して、地域力を高める点にある。

### 3. 研究の方法

上記の研究課題を達成するために、次のような研究課題を設定して研究をすすめる。

イギリス、アメリカのコミュニティワークの理論と実践の検討、日本の社会福祉の先行研究を批判的に検討することをおして、社会教育的アプローチの視点と介入の技法を明らかにする。

実証と実践のフィールドとして、現代的課題である「健康のまちづくり」、「震災からの地域の復興・再生」という2つの地

域課題に即して選定し、住民の自主的な活動を組織・支援する**アクションリサーチの手法をとりつつ調査をすすめる**。

構成主義の立場から、住民の活動への参加をとおして、何を学んだのか、いかに学んだのかということについての**ヒヤリングを実施し、その知見を理論化する**。

以上の**研究を総括**し、コミュニティワークの社会教育的アプローチの理論と技法を提示したい。

#### 4. 研究成果

本研究では、コミュニティワークの社会教育的アプローチを構築するための理論的、実践的な研究である。

以下の諸点を明らかにした。第1に、コミュニティワークをすすめる際に、参加する人びとのエンパワーメントをはかる必要があり、そのためには教育的アプローチが必要である。第2に、教育的アプローチとは、講座を開催するという手法ではなく、参加を深めるような教育的支援が求められる。第3に、教育者の役割は、この参加を支援するために学ぶ環境をつくるのが大切である。

研究成果を有効なものにするために、「市民参加でつくる計画・評価のためのツール」を開発し、NPOなどで活用されている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 12 件)

1. 高橋満, 看護の力をどのように育むのか: 労働の場における学習の意義. [産労総合研究所 看護のチカラ, 20(439), (2015), 4-15] 査読無.
2. 高橋満, Choi Myungyu, 高齢者の自主活動と地域づくり (韓国語). [地域づくりと社会教育 (韓国語), 7, (2015), 183-198] 査読無.
3. 榎石多希子, 李篠平, 高橋満, 広森直子, 社会変動下における高学歴女性のライフコースと学歴・文化資本 (1) - 中国・外国語大学日本語学科 1983 年卒業生の事例. [人間の発達, (10), (2015), 37-57] 査読あり.

4. 高橋満, 朴賢淑, 中野弘樹, 市民力を育む社会学級の仕組み. [東北大学大学院教育学研究科「研究年報」, 63(2), (2015), 45-65] 査読あり.
5. 高橋満, 震災ボランティアの現状と課題. [社会学年報, 43, (2014), 31-34] 査読無.
6. 高橋満, だれが震災ボランティアに参加しているのか—学ぶことの意義—. [社会教育研究, (2014), 74-76] 査読無.
7. 高橋満, 生涯学習のガバナンスと NPO の役割. [教育ネットワークセンター年報, 2014, (2014), 1-9] 査読無.
8. 渡邊祐子 高橋満, 美術館経験と意味の構成. [東北大学大学院教育学研究科年報, 62(1), (2013), 91-114] 査読あり.
9. 高橋満, 福祉のまちづくりと「合意」の形成—学びのコミュニティをつくる—. [認知症ケア事例ジャーナル, 6 (3), (2013), 298-308] 査読無.
10. 高橋満・佐野万里子, 公民館職員の専門性とは何か—研修編成の構想. [国土社月刊社会教育, (2013)] 査読あり.
11. 高橋満, 若者の社会参加のポリティクス. [社会文化研究, (15), (2012), 7-27]
12. 高橋満, 看護の力をどのように育むのか (2). [東北大学大学院教育学研究科年報, 60 集(2), (2012), 99-124] 査読あり.

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 5 件)

1. 高橋満, 榎石多希子, 小林建一, 松本大, 香曾我部琢, 櫻幸恵, 上原裕介, 李智, 渡邊祐子, 広森直子, 対人支援職者の専門性と学びの空間. [創風社, (2015)], 序章 11-26, 第 3 章 61-88, 第 4 章 89-138, 第 11 章 261-276, 終章 277-288, 全 287 頁.
2. 松田武雄, 高橋満ほか, 地域を支える人々の学習支援—社会教育関連職員の役割と力量形成—. [東洋館出版, (2015)], 1-3, 全 258 頁.
3. 高橋満・榎石多希子ほか, 希望への社会教育. [東洋館出版社, (2013)], 155-172, 全 303 頁.
4. 高橋満ほか, 労働の場のエンパワーメント. [東洋館出版社, (2013)] 32 - 172, 全 252 頁.
5. 高橋満, コミュニティワークの教育的実践. [東信堂, (2013)], 全 202 頁.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:

番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

高橋満(TAKAHSHI Mitsuru)  
東北大学大学院・教育学研究科・教授  
社会教育学・博士（教育学）  
全体の総括  
研究者番号：70171527

##### (2) 研究分担者

石山竜平(ISHIIYAMA Ryuhei)  
東北大学大学院・教育学研究科・准教授  
社会教育学・修士（教育学）  
震災復興  
研究者番号：30304702  
槇石多希子(MAKIISHI Takiko)  
仙台白百合女子大学・人間発達学部・教授  
震災復興・健康づくり・博士（教育学）  
研究者番号：80209402  
上田幸夫(UEDA Yukio)  
日本体育大学・体育学部・教授  
社会教育学・修士（教育学）  
震災復興  
研究者番号：90103564

##### (3) 連携研究者

なし